

『新生児の父親としてできること』

核家族化や女性の社会進出などの変化に伴い父親の育児参加の考えが広がり、現在ではイクメンの言葉に表されるように父親の育児参加が浸透しています。

そこで今回は、新生児をもつ父親としてできることについて考えてみたいと思います。両親は、お互いに育児についていろいろな希望や考えを持っていきます。その時、新生児の父親としてまず思いつくのは、「子どもの入浴」「おむつの交換」「遊び相手」などでしょう。

しかし、現状では育児に参加したくても困難な父親もいると思います。近年、子育て世代にあたる20



函館中央病院 未熟児センター
新生児集中ケア認定看護師
主任看護師

由利 伸也 さん

〜30歳代の就業時間が長くなっています。就業時間が延長し、帰宅する頃にはすでに子どもは寝ている事が多いかもしれません。1日の中で昼と夜の区別なく睡眠と覚醒を繰り返しながらも平均16〜20時間の睡眠をとる子どもリズムを考え、たときに、遅く帰宅した父親を待つて入浴をすることはかえって子どもの成長発達にとって望ましくありません。

そのため、24時間のサイクルの中で子どものリズムと父親の生活パターンを重ね合わせて考え、できそうな育児は何かを考えることが必要と思われまます。育児の他に炊事や洗濯、

掃除、買い物などの家事も父親としてできることの1つです。そして何よりも、母親に対する情緒的支援が重要です。父親の協力的な態度や父親から支えられていると感じられる関わりにより、母親の疲労が軽減されます。そのため、夫婦の間で積極的に会話を交わし、その日あったことに耳を傾けることなどが重要です。

新生児の父親や夫として物心両面からの役割が求められており、その中で可能なことを担っていくことが必要です。



函館中央病院

函館市本町33-2
☎0138-52-1231(代)

診療科目／内科、消化器内科、循環器内科、産婦人科、小児科、外科、整形外科、形成外科、心血管外科など全22科目
受付時間／8:30〜11:30・13:30〜16:00
※土曜は午前のみ。
診療科や時間帯によっては要予約。
休診日／日曜・祝日・年末年始・開院記念日(6月第1水曜)
<http://www.chubyou.com/>